

学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）									
所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（法学）」を授与する。									
〔政治学科〕									
1. 基礎科目として開講される教養科目の履修により、政治学ないし社会科学の領域を超えた教養と学識を獲得した学生									
2. 専門教育科目の必修科目および選択科目を履修することにより、政治学に係る専門知識を獲得した学生									
3. 口頭報告ないしレポート・論文等によって、研究結果を取りまとめ報告することができた学生									
4. 演習・ワークショップ等の場において積極的に討論するなど、コミュニケーションをはかることができる学生									
〔凡例〕									
◎＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを特に強く推奨する科目。									
○＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを強く推奨する科目。									
△＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することが望ましい科目。									
無＝当該DPの示す学習成果を達成するために、余裕があれば履修することが望ましい科目。									
分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
必修科目	政治学の基礎概念Ⅰ	BSP100AC	1～4	政治学の学習に必要な基礎概念や基本知識を習得します。	政治学を学習する際に必要となる概念や仕組みを習得し、政治の世界の基本的な特徴を把握することをめざします。	◎	◎	◎	◎
	政治学の基礎概念Ⅱ	BSP100AC	1～4	政治学の学習に必要な基礎概念や基本知識を習得します。	政治学を学習する際に必要となる概念や仕組みを習得し、政治の世界の基本的な特徴を把握することをめざします。	◎	◎	◎	◎
共通選択科目	政治学入門演習	BSP100AC	1	この授業は、政治学科の専門科目を学ぶための入門科目として位置づけられます。政治学（あるいは社会科学）の基礎的な文献を読んで、大意をつかみ取り、そのなかで気づいたコメントや疑問を議論し、さらに文献の要約やコメント・疑問についてレジュメやレポートを書くといったことから構成されています。	政治学科の1年生を対象に、読む、書く、発言する、議論を理解する等の大学生としての基本的な能力を身に付けること、さらに読みやすい文献に接しながら政治学とはどのような学問なのか、その具体的なイメージを持つことを目標としています。	◎	◎	◎	◎
	政治学特殊講義Ⅰ（概説イタリア政治-歴史と思想）	POL300AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目であり、イタリアの政治思想家アントニオ・グラムシ（1891-1937）の思想（ヘゲモニー論）の形成過程を追跡するものである。21世紀に入り、世界はグローバル化・情報化・金融化の傾向を示しながら、再度、階級社会へと回帰しているように思われる。それゆえ、階級社会の政治分析として一定の切れ味を持つマルクス主義理論をふりかえり、そのなかでも特異なマルクス主義理論とみなされているグラムシのヘゲモニー論を取り上げることにした。第一次世界大戦からロシア革命、イタリア・ファシズムの成立（ムッソリーニのローマ進軍）などの歴史背景を説明しつつ、グラムシ政治思想の核心としてのマキアヴェッリ論を理解する。	20世紀前半のイタリア政治史についての理解が可能となり、それをもとにグラムシの政治思想を理解できるようにする。また、グラムシ『獄中ノート』の解説を通じてイタリア・ルネサンス期の歴史家マキアヴェッリの政治思想、さらには近代イタリア国家形成としてのリソルジメント史の流れと意義を理解できるようにする。	△	○	○	○
	政治学特殊講義Ⅱ（概説イタリア政治-歴史と思想）	POL300AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目であり、イタリアの政治思想家アントニオ・グラムシ（1891-1937）のヘゲモニー論の形成過程を追跡するものである。21世紀に入り、世界はグローバル化・情報化・金融化の傾向を示しながら、再度、階級社会へと回帰しているように思われる。それゆえ、階級社会の政治分析として一定の切れ味を持つマルクス主義理論をふりかえり、そのなかでも特異なマルクス主義理論とみなされているグラムシのヘゲモニー論（『現代の君主』）における（受動的革命）論（リソルジメント論、ファシズム（カエサル主義）論、フォーディズム論）と市民社会（形成）論（政党内閣と社会運動論、知識人論とサルバルタン（従属的）階級論、国家を市民社会へと再吸収する構想など）を説明しつつ、グラムシ政治思想の核心をつかむ。	20世紀前半のイタリア政治史についての理解が可能となり、それをもとにグラムシの政治思想を理解できるようにする。また、グラムシ『獄中ノート』の解説を通じて、ヘーゲルにはじまる西欧政治思想史上の（市民社会）概念、マルクスの革命論、マックス・ヴェーバーに見られる（カエサル主義）概念、さらにはサルトル、フーコーらの知識人論とグラムシとの継承関係、そしてグラムシ以降の西欧マルクス主義やポスト・マルクス主義、フランクフルト学派の理論の流れを理解できるようにする。	△	○	○	○
	政治学特殊講義Ⅰ（日韓比較政治思想）	POL300AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。	一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。	△	○	○	○
	政治学特殊講義Ⅱ（日韓比較政治思想）	POL300AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。	一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。	△	○	○	○
	政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）	POL300AC	1～4	日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が課せられています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。昨年施行された安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はソビエトコントロール（文民統制）の国です。もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。	日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。	△	○	○	○
	政治学特殊講義Ⅰ（現代の政治理論）	POL300AC	1～4	政治理論は危機の時代に生まれる、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す中で、政治学は古来より医学に喩えられてきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に対峙してきた。現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治が抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論がはたして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。	1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。 2 今日政治的諸課題について理解する。 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。	△	◎	○	○
	政治学特殊講義Ⅱ（現代の政治理論）	POL300AC	1～4	政治理論は危機の時代に生まれる、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す中で、政治学は古来より医学に喩えられてきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に対峙してきた。現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治が抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論がはたして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。	1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。 2 今日政治的諸課題について理解する。 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。	△	◎	○	○
	政治学特殊講義Ⅰ（20世紀の世界と政治思想）	POL300AC	1～4	この科目は、「理論・歴史・思想」の分野に属する。20世紀の政治思想を対象とし、20世紀の歴史的出来事との関連において、それらの内容を講義する。前期ではその代表的な思想として全体主義、共産主義、リベラリズムとその変容、デモクラシーをとりあげ、受講者がそれらの思想の成り立ちや現代における影響力を理解・説明できるようになることを目的とする（後期授業は20世紀後半の政治思想を取りあげるため、実質的に前期授業の続編となる）。	20世紀の政治思想における代表的な思想（イデオロギー）について、それらが生じてきた歴史的背景、掲げた目的、実際に構築した政治体制の達成や限界を理解し、それらの思想の現代的意義について自分なりの知見を表現できるようになる。	△	◎	○	○
	政治学特殊講義Ⅱ（20世紀の世界と政治思想）	POL300AC	1～4	この科目は、「理論・歴史・思想」の分野に属する。20世紀の政治思想を対象とし、20世紀の歴史的出来事との関連において、それらの内容を講義する。後期ではその代表的な思想としてナショナリズム、ニューレフト（新左翼）、フェミニズム、ポスト植民地主義、ポスト・モダン主義、グローバリズムをとりあげ、受講者がそれらの思想の成り立ちや現代における影響力を理解・説明できるようになることを目的とする（前期では20世紀前半の政治思想を取りあげるため、前期を履修していると授業の理解が促進されるが、もちろん必須ではなく、後期からの受講も歓迎する）。	20世紀の政治思想における代表的な思想（イデオロギー）について、それらが生じてきた歴史的背景、掲げた目的、実際に構築した政治体制の達成や限界を理解し、それらの思想の現代的意義について自分なりの知見を表現できるようになる。	△	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	現代政策学特講Ⅰ（立法学）	POL300AC	1～4	本科目は、政治学科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成（立法）過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘されており、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、単なる手続面のみならず法制度化される（べき）内容の面、各段階における関係者の行動の在り方の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。	法制度は不動文字ではなく、社会の変化に対応して日々変化し続けるものです。政治学・国際政治学の皆さんにおいては、政治過程において、政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学の皆さんにおいては、解釈の対象となりがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで、実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。	△	◎	○	○
	現代政策学特講Ⅱ（立法学）	POL300AC	1～4	本科目は、政治学科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成（立法）過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘されており、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、単なる手続面のみならず法制度化される（べき）内容の面、各段階における関係者の行動の在り方の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程を分析します。	法制度は不動文字ではなく、社会の変化に対応して日々変化し続けるものです。政治学・国際政治学の皆さんにおいては、政治過程において、政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学の皆さんにおいては、解釈の対象となりがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで、実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。	△	◎	○	○
	公共政策フィールドワーク	POL300AC	1～4	本講は、「政策・都市・行政」分野に属し、実習を中心とする6単位科目である。いわゆる「右肩下りの時代」に突入した日本の地域社会における政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察する。人口構造が大きく変化するメガトレンドをふまえ、現実を直視しつつ将来を展望する問題意識と洞察力を養うことを目的とする。	フィールドワークに先立つ講義や各種情報収集等により、現代における地域社会の変容と種々の政策領域における主体形成について理解し、問題の所在を認識する。そのうえで、フィールド調査の手法を体得し、調査結果の分析を経て報告にまとめ上げる。	◎	○	○	○
	外国語演習Ⅰ	POL300AC	2～4	この授業では、現代政治理論に関する英語文献を講読する。現代政治理論の研究を行うにあたって、外国語文献の読解は必須である。文献講読を通じて、英語による専門書の読解能力を身につけるとともに、現代政治理論の基礎知識を習得することがこの授業の目的である。	①現代政治理論の英語文献を正確に読むことができる。 ②現代政治理論の重要テーマならびに諸概念を理解し、それを研究や分析に応用できる。	○	◎	◎	◎
	外国語演習Ⅱ	POL300AC	2～4	この授業では、現代政治理論に関する英語文献を講読する。現代政治理論の研究を行うにあたって、外国語文献の読解は必須である。文献講読を通じて、英語による専門書の読解能力を身につけるとともに、現代政治理論の基礎知識を習得することがこの授業の目的である。	①現代政治理論の英語文献を正確に読むことができる。 ②現代政治理論の重要テーマならびに諸概念を理解し、それを研究や分析に応用できる。	○	◎	◎	◎
	A Short Introduction to Japanese Politics	POL100AC	1～4	How do you describe Japanese politics? If you express it by some phrase, what kind of words do you apply to it? Japanese politics is often described by negative words, such as black box, enigma, facelessness, pork barrel, rigidity, out-dated and so on. While these negative descriptions still remains some dimensions of Japanese politics, they are no longer applicable to others. Contemporary Japanese politics presents dynamic and interesting aspects. It is not always boring or simple. When you shed light on specific issues including Japan-US relations, democratic policy-making, political process, gender and social policy, specifically, your interests in Japanese politics will be increased. This course provides you with a brief introduction to contemporary Japanese politics from practical perspectives and then pursues to stir up your interests in Japanese politics. Hopefully, the course will inspire you so as to draw your own image of Japanese politics. The class is carried out by four distinguished professors, who are experts on diverse fields of political science. Each professor will talk about the essence of his/her speciality, taking into account your understanding level as well as your interests. However, they will give you only a beginning part of their subject. Further exploration will be left on your own.	The goal of this course is to let you know how exciting Japanese politics is and to guide you into ways of studying it from diverse perspectives. Throughout the course, you will be able to roughly understand how Japanese politics has been developed, how it is performed and what problem it faces.	◎	△	△	△
	外国語講読Ⅰ（独語）	POL300AC	2～4	政治に関わる思想・歴史や政策をさらに深く考え、グローバルな視点を身につけるために、ドイツ語の文献を読んで、ドイツ語読解力を鍛える。	ドイツ語の新聞・雑誌や基礎的な文献を読みこなす能力を身につけることができる。同時にドイツ語圏の政治（社会や文化をも包含する広い意味での）についての知識を身につけることができる。	◎	△	◎	◎
	外国語講読Ⅱ（独語）	POL300AC	2～4	政治に関わる思想・歴史や政策をさらに深く考え、グローバルな視点を身につけるために、ドイツ語の文献を読んで、ドイツ語読解力を鍛える。	ドイツ語の新聞・雑誌や基礎的な文献を読みこなす能力を身につけることができる。同時にドイツ語圏の政治（社会や文化をも包含する広い意味での）についての知識を身につけることができる。	◎	△	◎	◎
	外国語講読Ⅰ（朝鮮語）	POL300AC	2～4	この講義においては、ハンゲルを通じた政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハンゲル検定三級以上の何れかの語学力が必要です。	基礎レベルのハンゲル学習能力をもとに、基本的なハンゲル文献判読能力を高めた学生のために学習を行う予定です。語学としてのハンゲル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。	◎	△	◎	◎
	外国語講読Ⅱ（朝鮮語）	POL300AC	2～4	この講義においては、ハンゲルを通じた政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハンゲル検定三級以上の何れかの語学力が必要です。	基礎レベルのハンゲル学習能力をもとに、基本的なハンゲル文献判読能力を高めた学生のために学習を行う予定です。語学としてのハンゲル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。	◎	△	◎	◎
	外国語講読Ⅰ（中国語）	POL300AC	2～4	「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の一つの目的です。	①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。 ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。	◎	△	◎	◎
	外国語講読Ⅱ（中国語）	POL300AC	2～4	「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の一つの目的です。	①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。 ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。	◎	△	◎	◎
選択科目 (理論・歴史・思想)	政治理論Ⅰ	POL100AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。政治は「可能性の技術」と言われるが、それは政治が人間の自由を前提とした活動であることを暗示している。本講義では政治的自由論を足がかりとして政治理論のいくつかの主題にアプローチする。この作業を通じて、政治理論の歴史的な持続性と変容について理解することを目標とする。	政治学の規範的側面に関する理解を深める。政治理論の古典的なテキストに精通する。人間的自由の観点からわれわれ自身の生活様式を批判的に吟味する。	◎	◎	○	○
	政治理論Ⅱ	POL100AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。政治は「可能性の技術」と言われるが、それは政治が人間の自由を前提とした活動であることを暗示している。本講義では政治的自由論を足がかりとして政治理論のいくつかの主題にアプローチする。この作業を通じて、政治理論の歴史的な持続性と変容について理解することを目標とする。	政治学の規範的側面に関する理解を深める。政治理論の古典的なテキストに精通する。人間的自由の観点からわれわれ自身の生活様式を批判的に吟味する。	◎	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	現代政治思想 I	POL200AC	1～4	政治学科目のなかで「思想・歴史」の分野に属する科目であり、現代ヨーロッパ、とりわけドイツの政治思想をその思想的および社会／政治的背景と結びつけて考察することをテーマとしています。とりわけ、19世紀後半から現代に至るドイツの政治思想家たちが、いかなる現実的問題と格闘するなかで自らの思想を形勢していったのかを理解することを通じて、現代日本に生きるわれわれにとってこれらの思想がいかなる意味をもちうるのかを、受講生とともに考えていきたいと思います。	現代ドイツの政治思想並びに思想家について概括的な知識を獲得するのみならず、それを通じて現代日本における政治的・社会的諸問題を、政治哲学的観点から考察することができるようになることが、この授業の目標となります。	◎	◎	○	○
	現代政治思想 II	POL200AC	1～4	政治学科目のなかで「思想・歴史」の分野に属する科目であり、現代フランスの政治思想をその思想的および社会／政治的背景と結びつけて考察することをテーマとしています。とりわけ、19世紀後半から現代に至るフランスの哲学者たちが、いかなる現実的問題と格闘するなかで自らの政治思想を形勢していったのかを理解することを通じて、現代日本に生きるわれわれにとってこれらの思想がいかなる意味をもちうるのかを、受講生とともに考えていきたいと思います。	現代フランスの政治思想並びに思想家について概括的な知識を獲得するのみならず、それを通じて現代日本における政治的・社会的諸問題を、政治哲学的観点から考察することができるようになることが、この授業の目標となります。	◎	◎	○	○
	公共哲学 I	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「理論・歴史・思想系」に属します。「公共」と「公共哲学」はともに最近注目されてきた言葉です。「公共」についての関心が深くならざるを得ない社会背景があると考えられます。そうした社会背景も含めて「公共」というものの基本的な考え方を理解することがこの授業のテーマです。	「公共」の基本的な意味、社会における「公共」の現象形態、歴史的变化、現代における「公共」の三つの意味、「市民社会」という概念との関連、を理解すること。	○	◎	○	○
	公共哲学 II	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。近年において「公共性」論や、公共性と密接に関連する「市民社会」論に対する注目が集まっている。これらの議論の背景に存在する哲学・思想を探求することは、公共哲学の重要な課題の一つである。公共哲学IIでは、この公共性や市民社会といった用語・概念が、どのような歴史的由来を有しているのかという点について学んでいく。	①公共哲学史を学ぶことを通じて、現在において用いられている公共性や市民社会といった概念が、どのように理解され、どのように議論されてきたかを理解すること。②授業で取り上げる各思想家の議論が、公共性論、市民社会論の中でどのように位置づけられるのかを理解すること。	○	◎	○	○
	政治構造論 I	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治構造を認識論の次元から考察する予定である。	政治が人と人の関係でしかないにもかかわらず、これが実体化され、あたかも物理的にわたしたちの眼前に聳えるかのように認識されるのは何故なのかという疑問にせまる。	無	◎	○	△
	政治構造論 II	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治構造を認識論の次元から考察する予定である。	人と人の関係でしかないにもかかわらず、これが実体化され、あたかも物理的にわたしたちの眼前に聳えるかのように認識されるのは何故なのかという疑問に一定の答えを出す。	無	◎	○	△
	政治体制論 I	POL100AC	1～4	政治学科目のなかで「歴史・思想・理論」の分野に属する授業である。政治における体制および制度に関する歴史的・学説的な変遷と各国の比較を踏まえ、国家や社会を動かす基本構造への理解を深めることを目的とする。	主だった政治体制・政治制度の仕組みを学習し、各々の特徴や課題を理解するとともに、望ましい体制・制度のあり方について考察する視角を身につけること。	○	○	○	○
	政治体制論 II	POL100AC	1～4	政治学科目のなかで「歴史・思想・理論」の分野に属する授業である。政治における体制および制度に関する歴史的・学説的な変遷と各国の比較を踏まえ、国家や社会を動かす基本構造への理解を深めることを目的とする。	現代の政治体制・政治制度に関する主だった理論的立場を学習し、各々の特徴や課題を理解するとともに、望ましい体制・制度のあり方について考察する視角を身につけること。	○	○	○	○
	比較政治論 I	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。2017年はロシア革命百年にあたる。そのこともあって、前期の比較政治論では、ロシア革命百年に関連した20世紀の政治変動を広く比較の観点から考える。20世紀はロシアで起きた二つの事件、つまり1917年のロシア革命と、1991年のソ連崩壊が、二つの世界大戦、そして冷戦とともに最も大きな歴史変動である。また日ソ関係の変動と崩壊、領土問題とプーチンを含めて東アジアにも影響している。こういった問題群を考える。	比較政治学という学問とは何か、なぜ比較が重要なのか。21世紀の政治は20世紀政治とはどう違うのか。歴史はそもそもどう発展するものなのか。また領土や歴史をめぐる問題や紛争が絶えないのか。これらを考える。1917年のロシア革命から世界戦争、冷戦が始まって以降の米ソ対立、中ロ関係、さらに冷戦終結とソ連崩壊に至る問題を考える必要がある。本講義はロシア革命100周年という年、20世紀政治の特徴を現代のグローバルな比較の観点から考える。また冷戦終結後、21世紀にもちこまれた問題を比較政治という角度から議論してみたい。歴史と現代との構造的問題をわかるように考える。	○	◎	○	○
	比較政治論 II	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。比較政治論 I では100年たったロシア革命からソ連崩壊までの展開を見たが、IIでは現代ユーラシアの政治発展とその比較をソ連崩壊後の世界を対象に考える。とくに現代ウクライナ問題やロシアとの関係、中国や中央アジアなど、エネルギーから気候変動など、Sea Change によって北極圏から太平洋が重視される時代のユーラシアを考察したい。日ロ関係も重要テーマである。	本講義にはユーラシア政治入門という性格があります。旧ソ連地域の崩壊後のグローバル化の20年余の変動がどうしてばらつきを生んだのか。ウクライナ危機の原因には宗教など文明的側面があること、現代中央アジアと中国のシルクロード政策、なぜユーラシアでイデオロギーからイスラムなど宗教などのアイデンティティを巡る紛争に至った理由とは何かを考えます。	○	◎	○	○
	政治意識論 I	POL100AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。「制度と意識の相互関係」。政治意識、わけても、投票行動のような集合的な態度については、社会の制度的枠組みとの関係性の中で理解していかなければならない。あわせて、意識はそれを捉えるための操作的な方法についても留意する必要がある。	政治意識論 I は、「選挙制度と投票行動」をテーマに、約束事としての制度が、われわれの意識や行動をどのように条件付けているのかについて理解を深めたい。	○	○	△	△
	政治意識論 II	POL100AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。「制度と意識の相互関係」。政治意識、わけても、投票行動のような集合的な態度については、社会の制度的枠組みとの関係性の中で理解していかなければならない。あわせて、意識はそれを捉えるための操作的な方法についても留意する必要がある。	政治意識論 II は、「意識の実証研究」をテーマに、政治意識を捉える方法論および調査研究の科学性について、理解を深めたい。	△	○	△	△
	政治文化論 I	POL200AC	1～4	現代民主主義の政治過程を、福祉国家の発展と変容を題材に考察する。第一部においては、理論を中心に検討し、第二部においては福祉国家をめぐる戦後日本の政治過程について、第一部で紹介した理論に基づいて分析する。	到達目標 福祉国家は、20世紀において民主主義政治が生んだ最大の成果のひとつであり、それがどのように生まれ、変化してきたのか、各国における福祉国家の多様性はどのような政治的環境で生まれたのかを理解することで、現代民主主義政治の歴史的意義と課題、そして将来的展望を考えることが可能になる。	○	◎	○	○
	政治文化論 II	POL200AC	1～4	現代民主主義の政治過程を、福祉国家の発展と変容を題材に考察する。第一部においては、理論を中心に検討し、第二部においては福祉国家をめぐる戦後日本の政治過程について、第一部で紹介した理論に基づいて分析する。	到達目標 福祉国家は、20世紀において民主主義政治が生んだ最大の成果のひとつであり、それがどのように生まれ、変化してきたのか、各国における福祉国家の多様性はどのような政治的環境で生まれたのかを理解することで、現代民主主義政治の歴史的意義と課題、そして将来的展望を考えることが可能になる。	○	◎	○	○
	公共政策 I	POL200AC	1～4	私たちの日々の暮らしは、公共政策の存在を前提として成り立っていますが、その政策の対象や内容は、時代とともに変化してきました。本講義は、公共政策が求められる背景をはじめとして、その構造や理論についての基礎的な理解を得ることを目的としています。	本講義では、学生が、①公共政策の成り立ちと、公共政策に関する基礎理論を理解し、②現代社会における政策課題を把握することを目標とします。	△	○	△	△
	公共政策 II	POL200AC	1～4	政治学の視点から実証的な政策分析を行うために必要となるモデルや方法を理解するとともに、現代社会における政策課題に関する価値の対立について学び、それらの解決策について自ら思考する力を身につけることを目的としています。	本講義では、学生が、①現代社会における様々な政策課題について分析を行う際に必要となるモデルや方法について学ぶとともに、②公共的意志決定に際する政策的争点を理解することを目標とします。	△	○	△	△
	宗教文化論 I	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。世界のさまざまな宗教について基本的な知識を得るための入門講義。諸宗教についての知識は、グローバル社会に生きる私たちが他者を理解するために必要な教養の一部である。のみならず、諸宗教の豊かな伝統に触れることは、自己理解を深める契機ともなるだろう。	三大宗教（仏教・キリスト教・イスラーム）を中心に、世界宗教史についての基礎的教養を身につける。	○	△	△	△
	宗教文化論 II	POL200AC	1～4	政治学科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。世界のさまざまな宗教について基本的な知識を得るための入門講義。諸宗教についての知識は、グローバル社会に生きる私たちが他者を理解するために必要な教養の一部である。のみならず、諸宗教の豊かな伝統に触れることは、自己理解を深める契機ともなるだろう。	三大宗教（仏教・キリスト教・イスラーム）を中心に、世界宗教史についての基礎的教養を身につける。	○	△	△	△

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	ジェンダー論Ⅰ	POL200AC	1～4	この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。本講義は、政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方が、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。	授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にはない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このような学びを通して、学生にはヒューリスティックにものごとを問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。本講義は、上辺の知識ではなく、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。	○	◎	○	○
	ジェンダー論Ⅱ	POL200AC	1～4	この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。ジェンダー論Ⅰが基礎編という位置づけであるのに対し、本講義のⅡはジェンダーの視点を実際を使って政治学の課題を読み解く応用編にあたります。本講義では、現代政治学の中心課題の一つである民主主義に焦点を当て、民主政治の「非」あるいは「反」民主性を議論します。	授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にはない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このことをとおして、政治や社会の出来事を独自の視点で分析し、ヒューリスティックな解決方法を見つけて能力を養います。すなわち、本講義は受講生の自己開発的な知性を磨くことを目標にしています。	◎	◎	○	○
	マス・コミュニケーション論	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。人間の行動範囲の拡大とともに、マスコミは現代市民の情報収集に欠くことのできない道具になった。民主主義を支える「第四の権力」と評される一方で、報道内容が正確かどうか、権力との関係、そして市民の人権、プライバシーの侵害などさまざまな問題が指摘されている。社会生活とマスコミの関係性について考える	大学生にふさわしいメディア・リテラシーを身につけるための基本的知識を身につける。近い将来の社会人として、政治、経済、社会の動きを他人ごとではなく、自らの人生に引きつけて考える習慣を学ぶ	◎	○	○	○
	現代メディア論	POL200AC	1～4	この講義は、政策系の科目に属し、新聞を主な題材としてジャーナリズムのあり方について考える。様々なテーマに取り組む第一線の朝日新聞の記者らを講師に招き、現場での問題意識や取り組み、悩みを通じて、メディアの役割について理解を深める。政治や経済、科学、国際情勢、皇室報道といった諸分野の課題を考えると共に、「ネット時代におけるジャーナリズム」についても視点を据えておこう。また、直面する就活で新聞を活用する方法にも触れたい。全体を通じての問題意識としては、「民主主義と言論の自由」という大きなテーマが横たわる。	受講生には、地球市民としての自覚と判断力を培うと同時に、未来に資する報道のあり方について一緒に考えてもらいたい。日本を、そして世界を知る手段としてのメディア、とりわけ新聞に親しむ。	△	○	○	○
	ジャーナリズム実践講座	POL200AC	2～3	この講座は、政策系の科目である。メディアを目指す学生を主な対象に、「実践」を通じてジャーナリズムとは何か、を考えていく。大学の外にも出ていき、取材体験を積みながら、記事を書くトレーニングをする。	まずは「質問力」と「文章力」の向上を目指す。そのうえで「表現・報道の自由」「知る権利」「取材対象との接し方」などについて実地の経験を踏まえて考え、責任ある記事の送り手としての「基礎」を修得することを目指す。メディアを目指していない学生にとっても、考える力、調べる力、まとめる力、書く力、プレゼンテーション力など、「社会人としての基礎力」が身につくようにする。	△	○	○	○
	経済原論Ⅰ	ECN100AC	1～4	市場の理論と現実	春学期の経済原論Ⅰと秋学期の経済原論Ⅱは通年講義として受講することが望ましい。Ⅰでは市場原理について、現実の問題を取り上げて、それを深く理解するために理論や歴史や社会的背景を探る。現代経済学の教科書的な説明図式を習得したうえで、さらに理解を深めていきたい。理論やモデルだけでなく、市場経済でなにが実際に起きているか、どのような人物が何を考えてきたか等に関しても、エピソードを交えて紹介するつもりである。	○	◎	○	○
	経済原論Ⅱ	ECN100AC	1～4	企業の理論と現実	現代の企業・株式会社について、現実の問題を説明するなかで、その背景にある歴史や理論や社会的コンテキストを明らかにする。	○	◎	○	○
	日本政治論Ⅰ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。現代の日本政治を分析することを通じて、現代日本の構造、特徴を理解、把握することを目指す。とくに、日々のニュースを素材にしながら、受講生が生まれ育った、昭和から平成への時代変化、政治経済構造の変化を徹底的に解明する。	氾濫する情報の中で、何が重要で、何が未来を暗示しているかをつかみとれるだけの分析力、理解力、推理力を育てる。社会人として生き抜くうえで必須の情報分析力を培い、就職活動への有力なスキルとする。とくに、マスコミや企業の広報・宣伝など、「情報」「危機管理」に関連する職業や分野を目指す人々を対象にしている。	○	○	○	○
	日本政治論Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。半期科目に引き続き、日本政治を分析します。とくに、昭和から平成にかけての日本政治の諸問題を取り上げ、その歴史的背景、構造的要因についての分析、検討を行います。いまの政治の現状をグローバルな視点から、徹底、分析します。	社会人として生き抜くうえで必須の情報分析力を培い、就職活動への有力なスキルを獲得してもらいます。必要な情報を見極め、いかに取得するかなど、実践的な知識、役立つノウハウを教えます。新聞、テレビなどの公開情報、ネット情報では絶対には得られない様々な情報を初めて知ることができるよう。	○	○	○	○
	日本政治史Ⅰ	POL100AC	1～4	本科目は政治学科科目のうち「思想・歴史系」分野に属し、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策ならびに制度構想に資することを目的とする。	近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？	◎	◎	○	○
	日本政治史Ⅱ	POL100AC	1～4	本科目は政治学科科目のうち「思想・歴史系」分野に属し、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策ならびに制度構想に資することを目的とする。	近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？	◎	◎	○	○
	日本政治思想史Ⅰ	POL200AC	1～4	「日本政治思想史Ⅰ」：政治学科科目の中で、「思想・歴史」の分野に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。	現代日本においてたとえ「保守」的立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことですが、この問いは、もちろん、日本にとって明治維新（明治革命）がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	日本政治思想史Ⅱ	POL200AC	1～4	「日本政治思想史Ⅰ」：政治学教科目の中で、「思想・歴史」の分野に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料に当たり、その理解を深めていきます。	「日本」とはいったい何でしょうか。それはいったいいかなるものであったのでしょうか、あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している（ように見える）人々をとりあげ、彼ら（残念ながらすべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思ひます）が提示する様々な「日本」像について考えていきたいと思ひます。	○	◎	○	○
	日米関係論Ⅰ	POL200AC	1～4	政治学教科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。本授業では、太平洋戦争以後の日米関係について多角的に考察する。とりわけ、戦後の日米関係の基盤を作り上げた敗戦と占領、憲法制定、講和と安保、再軍備、そして沖縄問題などを詳しく検討し、日米関係の起源とその構造について考察する。	太平洋戦争終結以後の日米関係の展開とその構造的特質について説明できる。	△	○	○	○
	日米関係論Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学教科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。本授業では、1950年代後半から現在に至るまでの日米関係について多角的に考察する。とりわけ、安保改定、沖縄返還、冷戦終結後の安保再定義、そして沖縄の基地問題などを詳しく検討し、日米関係の展開とその現状を考察する。	安保改定以後の日米関係の展開とその特質について説明できる。	△	○	○	○
	ロシア政治史Ⅰ	POL200AC	1～4	「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅰ」では、帝政期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。（本講義はテーマ別の検討を行う「ロシア政治史Ⅱ」に続く。「ロシア政治史Ⅱ」を受講予定の学生は本講義を先に受講することが望ましい。）	(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。	△	○	○	○
	ロシア政治史Ⅱ	POL200AC	1～4	「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅱ」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本講義では時代を横断してテーマ別の検討を行うため、ロシア史についての前提知識がない場合は通史を概観する「ロシア政治史Ⅰ」を先に受講することが望ましい。	(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。	△	○	○	○
	国際政治史	POL200AC	1～4	この科目は、理論・歴史・思想の分野に属する科目である。国際政治の歴史の展開とともに理論・思想も扱われるので、国際政治の歴史と関連する理論・思想について学ぶことができる。具体的な内容は次の通りである。17世紀のウエストファリア条約によって成立したと考えられている近代国際政治の世界的展開を、権力政治的対立とイデオロギイ的対立の交錯に注目して説明する。また、近代国家の成立と変容、国内政治と国際政治の連関にも言及する。さらにヨーロッパに誕生した国際政治の世界と近代国家がヨーロッパ外に拡大したことの意味と、それがヨーロッパに与えた影響についても説明を行う。	現代世界がいかに形成されてきたかを、近代国家の成立とその変容、そして近代国際政治の世界的成立とその変容を検討することによって理解することを目指す。同時に、今後の世界がどのようになるかを考察する一つの手がかりを提供することを目指す。同時に、近代以降の世界史と19世紀後半以降の日本史に関する知識の再確認を行う。	○	◎	○	○
	アメリカ政治史	POL200AC	1～4	アメリカ政治の特徴を、歴史的背景にさかのぼって検討します。植民地時代から現在にいたるまでの合衆国の発展を、さまざまなテーマごとに考察します。	アメリカ合衆国の政治・経済・社会・文化は、日本と密接な関係を持ち、また、日本に影響を与えています。一般に思われているほどそれらの理解は簡単ではありません。アメリカという国のもつさまざまな特質を考察しながら、それらについて理解を深めることが目標です。	○	○	○	○
	ヨーロッパ政治史Ⅰ	POL200AC	1～4	この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。政治の世界は、個人の創発的行為と集散的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一律ではなく、時代・社会毎に異なっている。そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。	・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する	○	○	○	○
	ヨーロッパ政治史Ⅱ	POL200AC	1～4	この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。政治の世界は、個人の創発的行為と集散的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一律ではなく、時代・社会毎に異なっている。そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。	・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する	○	○	○	○
	ヨーロッパ政治思想史Ⅰ	POL200AC	1～4	この「ヨーロッパ政治思想史Ⅰ」は、政治学教科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目である。ヨーロッパにおける政治思想・政治学の歴史を学ぶ。そのことを通じて、政治について、政治学について、理解を深めることが目的である。	この「ヨーロッパ政治思想史Ⅰ」は、ヨーロッパにおける古代の政治思想の歴史を取り扱う。古代の政治思想は、近代・現代の政治思想・政治学にきわめて大きな影響を及ぼした。政治学における主な概念は、古代にほぼ出揃っている。とくに、(1)古代ギリシアの政治制度と政治思想、(2)古代ローマ共和政の政治思想、について適切な理解を修得することがこの授業の目標である。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ政治思想史Ⅱ	POL200AC	1～4	この「ヨーロッパ政治思想史Ⅱ」は、政治学教科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目である。ヨーロッパにおける政治思想・政治学の歴史を学ぶ。そのことを通じて、政治について、政治学について、理解を深めることが目的である。	本年度のこの「ヨーロッパ政治思想史Ⅱ」は、ヨーロッパにおける中世・初期近代の政治思想の歴史を取り扱う。とくに、宗教改革以後にヨーロッパで生じた凄惨な宗教対立が、ヨーロッパの政治思想・政治学にきわめて大きな影響を及ぼしたことについて適切な理解を修得することが、この授業の目標となる。講義内容は、別途授業科目に続く。	○	◎	○	○
選択科目 (政策・都市・行政)	福祉政策Ⅰ	POL200AC	1～4	政治学教科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。	・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。 ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。 ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。 ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考える。	△	◎	○	○
	福祉政策Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学教科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。	・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。 ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。 ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。 ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考える。	△	◎	○	○
	比較福祉国家Ⅰ	POL200AC	1～4	この授業は、政策・都市・行政分野の科目である。福祉政策・福祉政治について国際比較するなかで、歴史・思想的な側面も探究する。福祉国家のカタチは国際的に多様である。それでは、福祉国家はどのように多様であり、それは何に由来するのか。また、こんにち先進諸国で共通して進行している「福祉国家の再編」において、どのような選択肢があり得るのか。「比較福祉国家Ⅰ」ではこれらの問題について、国際比較の視点から、理論的・歴史的に考察する。	① 福祉国家の国際的な多様性を説明する代表的な見方を学習する。 ② 福祉レジームの類型論を、その理論的背景とあわせて理解する。 ③ 福祉国家の今日の状況を、福祉国家の戦後史および国際比較の視点から位置づけ、考察する視点を身につける。	○	○	○	○
	比較福祉国家Ⅱ	POL200AC	1～4	この授業は、政策・都市・行政分野の科目である。福祉政策・福祉政治について国際比較するなかで、歴史・思想的な側面も探究する。1980年代以降、各国で進められてきた福祉国家再編の延長線上に「新しい福祉国家」が姿を現しつつある。比較福祉国家Ⅱでは、社会政策の動向を国際比較することを通して、「新しい福祉国家」の具体像および「新しい福祉国家の政治」を、政策分野ごとの特性を踏まえて考察・把握するための視点を学習する。	① 福祉分野の国際的動向および福祉政治を分析するための視点を学習する。 ② 上記の視点を応用して、福祉国家の再編における共通性と多様性を、政策分野ごとの特性を踏まえて考察できるようになる。 ③ 国際比較統計等を用いたりサーチのスキルを向上させる。	○	○	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	環境政策Ⅰ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政策を学ぶに際して、関連法や事例を知るだけでは体系的なイメージが把握できません。現実の社会において政策を実施するには政策資源すなわちヒト・モノ・カネを割り当て、効果の予測と評価を行う過程が必要です。環境問題を現象面と数量面で捉え、誰が・何を・どれだけすればよいか、規制・基準・税制等が環境にどのような影響を及ぼすかを考えます。ただし環境の問題は極めて多岐にわたるので、環境政策Ⅰではエネルギー・原子力・大気汚染等とその検討手法を取り扱います。	(1)環境問題はなぜ起きるのか、感覚、風説ではなく物理的な現象としてメカニズムを把握する考え方を習得する。 (2)政策の立案・評価を数字を用いて検討する手法を習得する。 (3)エネルギー・放射線・大気汚染・騒音・道路政策等の基本的な考え方を理解する。 (4)問題の基本的な構造を理解した後、応用問題について自分で結果を導く手法を習得する。 (5)多くの情報の中から要点を整理する手法を習得する。	△	○	○	○
	環境政策Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政策を学ぶに際して、関連法や事例を知るだけでは体系的なイメージが把握できません。現実の社会において政策を実施するには政策資源すなわちヒト・モノ・カネを割り当て、効果の予測と評価を行う過程が必要です。環境問題を現象面と数量面で捉え、誰が・何を・どれだけすればよいか、規制・基準・税制等が環境にどのような影響を及ぼすかを考えます。ただし環境の問題は極めて多岐にわたるので、環境政策Ⅱでは交通に起因する環境問題とその検討手法を取り扱います。	(1)環境問題はなぜ起きるのか、感覚、風説ではなく物理的な現象としてメカニズムを把握する考え方を習得する。 (2)政策の立案・評価を数字を用いて検討する手法を習得する。 (3)エネルギー・放射線・大気汚染・騒音・道路政策等の基本的な考え方を理解する。 (4)問題の基本的な構造を理解した後、応用問題について自分で結果を導く手法を習得する。 (5)多くの情報の中から要点を整理する手法を習得する。	△	○	○	○
	経済政策Ⅰ	ECN200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現実の経済政策を経済学に基づいて考察する。政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保険の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の枠組みを用いて考えることが、この授業の目的である。	受講者各人が、経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付ける。	△	○	△	△
	経済政策Ⅱ	ECN200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現実の経済政策を経済学に基づいて考察する。政府（や中央銀行）は、財政政策、金融政策、及び労働政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、経済学の枠組みを用いて考えることが、この授業の目的である。	受講者各人が、経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付ける。	△	○	△	△
	都市政策Ⅰ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。	1)都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること 2)都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること	△	◎	○	○
	都市政策Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。	1)地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること 2)現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること	△	◎	○	○
	公共投資論Ⅰ	POL200AC	1～4	この科目は、「政策・都市・行政」分野に属する。公共投資と公共事業の関係を理解し、その歴史的背景や三権分立の中での位置づけと各事業の問題点を理解する。	公共投資=公共事業について多角的に理解する。	△	◎	○	○
	NPO論Ⅰ	POL200AC	1～4	この授業は、政策都市行政分野の科目である。本講義のサブタイトルは「NPOと情報」とする。政治学科科目の中で「政策系」に属する科目である。およそ社会的な活動をなすに当たって「情報」は不可欠なものであり、活動の基礎となる。情報は具体的な活動に動機・目的を与えるだけでなく、活動の内容を直接・間接に規定し、視野を広げれば、その活動を支える公共性の基盤となっている。NPOを考えるに当たっては、その背景にある情報の機能や意味を意識していく必要がある。本講義においてはさらに、その情報を送り出すメディアや政治権力の働きも視野に入れたい。	顕在化している社会問題、あるいは隠されている課題を掘り起こして、それらを他人任せにせず、参加し解決していく。NPO活動の本質はそこにある。これはまさに民主主義の原点であり、到達点ともいえる。そうしたNPO活動を、あらゆる場面で支えるのが情報だ。記者として見聞してきた多くの事例から、情報とNPOの関連を考え、情報の見極め方、生かし方を学んで、自立し、行動する人間の生き方をつかみたい。	△	○	△	△
	NPO論Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。まずNPO=NPO法人だけではないことを確認する。そのうえで、NPOを考えるための背景にある公益とは何か、非営利とは何かを考える。併せて、NPOは様々な社会活動、特に政治や行政とは切り離せない関係にあることを知る。本講義においては、常に政治や行政を意識しながら講義を進める。	NPOについての知識をつけるだけではなく、NPOを題材として、社会のあらゆる物事について自分の頭で考えること、本質はどこにあるかを見極められるきっかけ作りを目標とする。講義を終えるときには、NPOはもたらす、政治や行政など多くのことを「自分事」として捉えられ、社会に出るにあたってのヒントになること、同時に受講の満足度が高くなることを目指す。	△	○	△	△
	行政学	POL100AC	1～4	この講義は政策行政系の科目である。行政の役割と活動について説明し、行政府を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。	政府の役割と限界についての確に理解すること。 現代官僚制の役割と限界についての確に理解すること。	○	◎	○	○
	国際行政論Ⅰ	POL200AC	1～4	本授業は、「グローバル・リージョナルな国際公共政策」をテーマとする国際公共政策Ⅰへの乗り入れ科目である。そのため、以下の各項目について、国際公共政策を国際行政と読み替えることにより、本科目の概要と目的を確認されたい。本授業は以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力の養成を図ることを目的とする。	国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その結果をレポートにまとめることができる。	○	○	○	○
	国際行政論Ⅱ	POL200AC	1～4	「政策・都市・行政」の分野に属する本科目は、「日本の国際行政・国際公共政策」をテーマに、国際行政・国際公共政策について以下の諸項目で記載した要領で学んでいく。それにより、行政・政策など関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力を養成することを目的とする。	国際行政・国際公共政策について、特に日本に焦点を当てて様々な見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その結果をレポートにまとめることができるようになることが到達目標である。	○	○	○	○
	自治体論Ⅰ	POL200AC	1～4	この科目は、「政策・都市・行政」分野に属する。公共政策課題の解決装置の一つとして自治体を捉え、その諸政策の基盤となる自治体制度を理解する。	自治体政府の役割をそのあり方に係る基礎概念から理解する。	○	◎	○	○
	自治体論Ⅱ	POL200AC	1～4	この授業は、「政策・都市・行政」分野の科目である。「自治体論Ⅰ」を踏まえ、古典的理論と現行憲法下における自治体のあり方を理解する。	主な古典的自治理論とその限界を理解する。また、現行憲法下の自治制度の仕組みを知り、立憲民主主義の危機がどのように現出しているかを理解する。	○	◎	○	○
	政治過程論Ⅰ	POL100AC	1～4	この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。	現代政治の基本的な構図を理解すること。テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。市民として政治に対する問題意識を持つこと。	◎	◎	○	○
	政治過程論Ⅱ	POL100AC	1～4	この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。	現代政治の基本的な構図を理解すること。テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。市民として政治に対する問題意識を持つこと。	◎	◎	○	○
	コミュニティ論Ⅰ	POL200AC	1～4	政治学科の科目の中では「政策・都市・行政系」に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ論Ⅰ」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていきました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においてはまた独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。本講義はこうした日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。	コミュニティ、自治体内分権、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特異性を、理解すること。	○	○	○	○
	コミュニティ論Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学科の科目の中で、「政策・都市・行政」系に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ論Ⅱ」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行うことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組みを提示したいと思えます。	日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一面面を考察することができるようになること。具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経た後コミュニティにどのような制度的枠組みを付与するから国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったこと、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。	○	○	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	財政学Ⅰ	ECN100AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。 日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③世代間格差是正、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論（主にミクロ経済理論）について踏まえた後、市場の限界に対する政府の役割、租税が経済に与える影響などについて学習する。	市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。	○	○	△	△
	財政学Ⅱ	ECN100AC	1～4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。 財政学Ⅰの内容の理解を前提とした上で、政府の経済活動のマクロ経済的な側面について概説する。主な内容としては、財政金融政策、所得再分配政策、世代間格差の是正である。	本講義の到達目標は、①わが国財政に関するこれまでの歴史や現状、特徴や問題点について理解を深める、②税制、社会保障、地方財政に渡る包括的・体系的な視点を身につける、③わが国の財政を理解するための基本的な知識について学習することである。	△	◎	△	△
	協同組合論	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。 一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバル化が加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」とし、2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か」協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行います。	① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。 ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。 ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。	△	○	△	△
選択科目 (演習)	演習	POL300AC	2～4	各担当教員に指導のもと、演習参加者が、政治学に関連する文献の講読および研究テーマを設けてそれについての発表をおこなう。	文献を読む力、文章を書く力、プレゼンテーションをおこなう力を養成する。	◎	◎	◎	◎